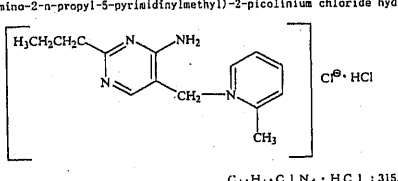
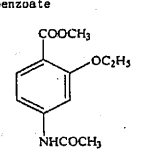
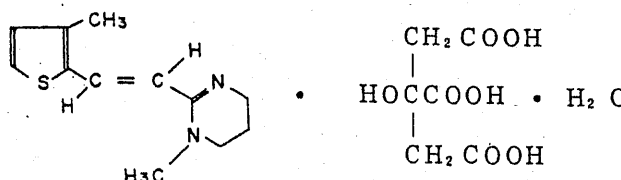
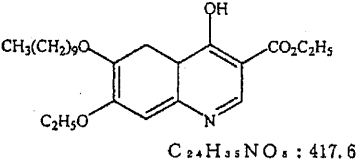
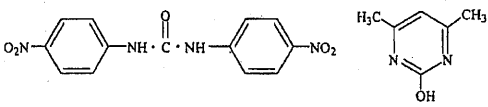
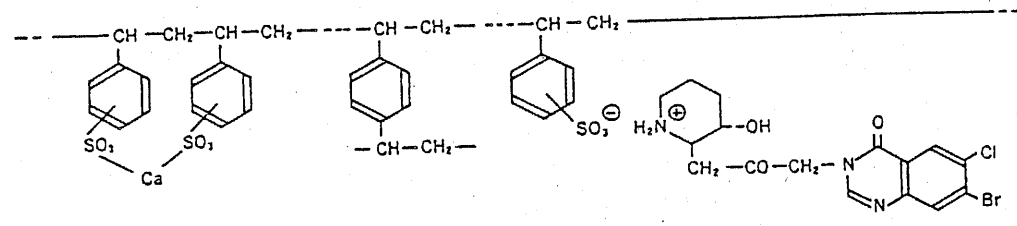


抗生物質の名称		アンプロリウム・エトパベート (アンプロリウムとエトパベートの合剤) : いずれも合成抗原虫物質					
種類 : アンプロリウム エトパベート		ピロジジン系化合物 化学合成物		化学式 $C_{14}H_{19}ClN_4 \cdot HCl$ (アンプロリウム) $C_{12}H_{15}NO_4$ (エトパベート)			
同一系統の人体用抗生物質 (全て記載) 無し							
区分 第1欄				規制区分 劇薬に該当しない			
構造式 : アンプロリウム							
<p>(1-(4-amino-2-n-propyl-5-pyridinylmethyl)-2-picolinium chloride hydrochloride)</p>  <p style="text-align: center;">$C_{14}H_{19}ClN_4 \cdot HCl : 315.25$</p> <p>エトパベート</p> <p>Methyl-4-acetamido-2-ethoxybenzoate</p>  <p style="text-align: center;">$C_{12}H_{15}NO_4 : 237.26$</p>							
由来 : アンプロリウムとエトパベートともに化学合成物				作用機序 : アンプロリウム (抗ファミン作用) エトパベート (PABA 拮抗作用) PABA : para-amino-benzoic acid			
抗菌スペクトル : アンプロリウムとエトパベートは抗コクシジウム (原虫) 作用を有するが、抗菌作用は無い。							
対象飼料および添加量 :						g 力価/トン	
レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
アンプロリウム 40~250	アンプロリウム 40~250	アンプロリウム 40~250					
エトパベート 2.56~16	エトパベート 2.56~16	エトパベート 2.56~16					
交差耐性に関する情報 抗菌作用はない。							
人体用医薬品での使用状況 : 使用なし							
今後の製造の意思 : あり (販売)							

抗生物質の名称		クエン酸モランテル						
種類		テトラヒドロピリミジン		化学式：C ₁₂ H ₁₆ N ₂ S・C ₆ H ₈ O ₇				
同一系統の人体用抗生物質（全て記載） なし								
区分		第2欄		規制区分				劇物に該当しない
構造式								
								
由来		化学合成		作用機序				コリン作動性アゴニスト、神経筋ブロック因子の脱分極
抗菌スペクトル 抗菌活性なし 豚回虫								
対象飼料および添加量							g力価/トン	
レイヤー	ブロイラー		豚		牛			
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期	
			30	30				
交差耐性に関する情報 なし								
人体用医薬品での使用状況： なし								
今後の製造の意思： あり								

抗生物質の名称		デコキネート：合成抗原虫物質					
種類：キノリン系化合物			化学式 C ₂₄ H ₃₅ NO ₅				
同一系統の人体用抗生物質（全て記載） 無し							
区分 第1欄			規制区分 劇物に該当しない				
構造式：デコキネート Ethyl-n-decyloxy-7-ethoxy-4-hydroxyquinoline-3-carboxylate  C ₂₄ H ₃₅ NO ₅ : 417.6							
由来：化学合成物			作用機序：脱水素酵素系への抑制的作用による 原虫の DNA 合成抑制。				
抗菌スペクトル：抗コクシジウム（原虫）作用を有するが、抗菌作用は無い。							
対象飼料および添加量						g 力価/トン	
レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期 肥育期	
20~40	20~40	20~40					
交差耐性に関する情報 抗菌作用はない。							
人体用医薬品での使用状況：使用なし							
今後の製造の意思：あり（販売）							

抗生物質の名称		ナイカルバジン：合成抗原虫物質					
種類：DNC*とHDP*の錯化合物（ピリミジン系）		化学式 C ₁₃ H ₁₀ N ₄ O ₅ 、C ₆ H ₈ N ₂ O(ナイカルバジン)					
DNC*：4,4'-ジニトロカルバニリド							
HDP*：2-ヒドロキシ-4,6-ジメチルピリミジン							
同一系統の人体用抗生物質（全て記載）							
無し							
区分 第1欄				規制区分 劇薬に該当しない			
構造式：ナイカルバジン							
4,4'-Dinitro carbanilide, 2-hydroxy-4,6-dimethyl pyrimidineの混合物							
							
C ₁₃ H ₁₀ N ₄ O ₅ 、C ₆ H ₈ N ₂ O=426.39							
由来：DNCとHDPとの分子化合物				作用機序：コクシジウム原虫の第二シント期に作用			
抗菌スペクトル：ナイカルバジンは抗コクシジウム（原虫）作用を有するが、抗菌作用は無い。							
対象飼料および添加量：							g力価/トン
レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
	100						
交差耐性に関する情報							
抗菌作用はない。							
人体用医薬品での使用状況：使用なし							
今後の製造の意思：あり							

合成抗菌剤の名称	ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウム (HPS)						
種類：抗原虫剤	化学式：C ₁₆ H ₁₇ BrClN ₃ O ₈ ・Calcium Polystyrenesulfonate						
<p>同一系統の人体用合成抗菌剤（全て記載）</p> <p>ハロフジノンポリスチレンスルホン酸カルシウムの活性成分であるハロフジノンは、古くは中国で抗マラリア治療薬として用いられたことはある。また、コルガード、バイオファーマシューティカル社は、2000年3月10日に米国FDAより強皮症治療の目的で希少疾病用医薬品として許可を取得した。しかし、インターベット インターナショナル社とは別個に開発されたために、その使用量等は不明である。</p>							
区分：第1欄	規制区分：医薬用外劇物 飼料安全法						
<p>構造式：</p> 							
由来：	ハロフジノンとポリスチレンスルホン酸カルシウムとが結合した高分子化合物			作用機序：			
			コクシジウム原虫の細胞壁発育の阻害？				
<p>抗菌スペクトル：</p> <p>*コクシジウムに対し広い抗菌スペクトル</p> <p>*グラム陽性、陰性菌に対してはほとんど抗菌活性を示さない</p>							
対象飼料および添加量							g 力価/トン
レイヤー	ブロイラー		豚		牛		
幼中すう	前期	後期	哺乳期	子豚期	哺乳期	幼齢期	肥育期
40	40	40	—	—	—	—	—
<p>交差耐性に関する情報：</p> <p>他の合成抗菌剤及びポリエーテル系の抗コクシジウム剤との交差耐性はない。</p>							
<p>人体用医薬品での使用状況：米国では希少疾病用医薬品として許可されているが、日本ではなし。</p>							
<p>今後の製造の意思：あり</p>							